

保育者養成教育における読み聞かせ活動の位置づけ
—研究論文のタイトル・サブタイトルのテキストマイニング—

伊藤恵美・いとうたけひこ*

Reading-to- children activity in the literature on childcare professional education

ITO, Emi and ITO, Takehiko

キーワード：保育者論、読み聞かせ、朗読、保育者養成、テキストマイニング

要約

保育士の専門性のひとつとして子どもと保護者の理解が重要である。この方法として、看護学教育分野ではすでに定着しているナラティブ教材の活用がある。本稿では、保育者養成教育分野において、ナラティブ教材を用いた読み聞かせ活動とその研究の実態と位置づけを明らかにするため、原著論文を対象にテキストマイニングの手法を用いて総説を行った。結果として、保育者養成教育分野では、当事者理解を目的としたナラティブ教材を用いた読み聞かせ活動と研究は行われていないことが明らかになったことを踏まえ、読み聞かせ活動の意義について理論的実践的視点から考察を行った。

I 問題と目的

平成 23 年に保育士養成課程の改正がなされ、保育の本質・目的に関する科目として「保育者論」が新設された。本科目の目的は次の通りである。

- 1 保育者の役割と倫理について理解する。
- 2 保育士の制度的な位置づけを理解する。
- 3 保育士の専門性について考察し、理解する。
- 4 保育者の協働について理解する。
- 5 保育者の専門職的成長について理解する。

新設の目的は、平成 22 年 3 月 24 日に保育士養成課程等検討会より示された「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」に次の通りに記されている。

*和光大学現代人間学部

「現行の「保育原理」に含まれていた保育士の役割と責務、制度的位置づけ、及び多様な専門性をもった保育者（看護師・栄養士等）との協働などについて学ぶことが重要であるため、「保育者論」を新設する。特に、児童福祉法第 18 条の 4 における保育士の定義や、保育士に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの保育と保護者支援を担う保育士の専門性について学ぶ科目とする」

そして、具体的な学びの内容は平成 22 年 7 月 22 日に厚生労働省による「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準についての一部改正」において次の通り示されている。

- 1 保育者の役割と倫理
 - (1) 役割
 - (2) 倫理
- 2 保育士の制度的位置づけ
 - (1) 資格
 - (2) 要件
 - (3) 責務
- 3 保育士の専門性
 - (1) 養護と教育
 - (2) 保育士の資質・能力
 - (3) 知識・技術
 - (4) 保育の省察
 - (5) 保育課程による保育の展開と自己評価
- 4 保育者の協働
 - (1) 保育と保護者支援にかかわる協働
 - (2) 専門職間及び専門機関との連携
 - (3) 保護者及び地域社会との協働
 - (4) 家庭的保育者等との連携
- 5 保育者の専門職的成長
 - (1) 専門性の発達
 - (2) 生涯発達とキャリア形成

科目の内容からも、子どもの保育に関する専門性ととも保護者や多職種との連携が重視されていることがわかる。これら保育士の専門性について知識と技術を学ぶとともに重要なことは、保育を利用する当事者である子どもとその保護者の実情と心情を知り、理解することであると考え。養成課程においては、ともすれば保育士としてあるべき姿を身につけることが中心となり、子どもが何を必要としているか、子どもの保護者がどのような気持ちで子育てをしているか、保育士に何を求めているかを知ることは難しい。

よって、筆者はこのうち保護者理解の一助として、本科目において、保護者の手記を用いて学生に対し読み聞かせを行っている。特に着目するのは障害をもつ子どもの保護者である。保育士がその専門性を問われるのは、障害があると診断がなされた子どもの「障害児保育」のみならず、障害があるかもしれない子どもの保育とその保護者支援においてである。養成課程の段階において、保護者の語りからその内面を理解する機会を持つことが必要であると考え。

当事者のナラティブ（語り）を重視し授業に取り入れる活動はすでに医療従事者養成教育の分野で行われている。山口ら（2008/2009）は看護教育の分野で闘病記や手記を用いる実践は、病気について知りたいと思っている当事者だけでなく、援助者である看護師、看護学を学ぶ学生、そして看護学教育に携わる看護教員にとっても、貴重な資料を提供してくれるものであり、当事者と援助者がともに学びを得られるものであると述べている。門林（2011）は看護学や薬学の授業で闘病記を取り入れて活用している。小平・伊藤（2009）、小平・いとう（2010ab）は当事者のナラティブを看護学などの教材として活用することを提案し、それらを「ナラティブ教材」とした。その定義を「患者の病の体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化したもの」とし、①手記・闘病記、②マンガ・コミックエッセイ、③定期刊行物、④テレビ番組、⑤ビデオ・DVD、⑥ドキュメンタリー映画、⑦ブログ・ウェブサイトの7つに分類した。

医療の分野では当事者である患者の闘病記や手記を養成教育に用いることの意義が認められているが、保育者養成教育の分野においてはその研究の実態は明らかではない。よって、本研究では日本語文献を対象にして保育者養成教育における「読み聞かせ」に関する先行研究の総説を行う。本研究の目的は、保育者養成教育についての日本語文献を収集し文献調査に基づき、その中で「読み聞かせ」がどのように位置付いているかを明らかにすることである。

II 方法

1 分析対象

(1) CiNii Articles を使用し、2012年6月27日までに登録されている論文の書誌データを、キーワード「保育原理」「保育者論」で検索した。「保育原理」27件、「保育者論」17件の合計44件を分析の対象とした。これら44件の文献をPDFにし、テキスト認識させた上でアクロバットプロで「読み聞かせ」を検索語として検索した。

(2) CiNii Articles より「読み聞かせ」を検索語として2012年7月26日に検索したところ、603件の文献が得られた。これらを保存して、一列目を文献番号、2列目をタイトル、3列目に著者名、4列目に書誌情報（雑誌名、巻号、ページ、出版年<年のみを取得し、月日は除外した>など）を、テキストとしてExcelで読み込めるように、Wordを用いてタブ区切りデータを作成した。具体的には、1文献につき[文献番号]タブ[タイトル]タブ[著者名]タブ[書誌情報（最後は4桁の出版年）]改行、という形式のデータをWordで作成した。タブ区切りデータをExcelにより加工して、文献番号（半角）、タイトル（と）サブタイトル、著者、著者の専門分野、雑誌名、雑誌の種類（紀要、学術雑誌、大会論文集、商業雑誌など）、発行年とした。これをSPSS Ver. 12により分析した。また、論文タイトルを対象として、テキストマイニングソフトText Mining Studio

により分析した。文献の種類は原著論文のみとした。

2 分析手続き

2-1 アクロバットプロ

キーワード「保育原理」「保育者論」で検索した合計 44 件の文献を PDF 化し、アクロバットプロで「読み聞かせ」を検索語として検索した。

2-2 SPSS

603 件の文献タイトルをテキスト化し、SPSS Ver. 12 により年代別の文献発行数と、年別の文献発行数を明らかにした。ただし、年代別については、2010 年代の文献はデータベースの登録が途中であるため、これを含めず、2000 年代までを分析対象とした。

2-3 テキストマイニング

603 件の文献タイトルをテキスト化し、Text Mining Studio Ver. 4.1 により、テキストマイニングの手法を用いて内容語の分析をおこなった。分析は(1)テキストの基本統計量（基本情報）、(2)単語頻度分析の順に行った。

2-4 エクセル

603 件の文献が掲載されている雑誌数を明らかにした。

Ⅲ 倫理的配慮

すでに公刊されている文献のタイトルなどの分析であるので、倫理的配慮は特に必要がない。

Ⅳ 結果

1 「保育原理」「保育者論」文献における「読み聞かせ」の検索

キーワード「保育原理」「保育者論」で検索した文献 44 件をアクロバットプロにて「読み聞かせ」で検索したところ、1 個あった。その文献タイトルは「研究授業「保育原理 IA」の実施」で、文中では、「授業の過程では、テキストで紹介されている絵本『トーマスのもくば』をスキャンした画像を教室のディスプレイに映して、授業者が学生に対して読み聞かせを行った」という箇所です。「読み聞かせ」が使われており、物語解釈は多様であることを気づかせ、子ども理解を促す目的で学生に対して絵本を読み聞かせをした授業実践を記していた。

2 検索語「読み聞かせ」を含む文献の発行数の推移

検索語の「読み聞かせ」を含む文献 603 件の発行年代（図 1）を見ると、1990 年代に 100 件近く、2000 年代に入ると 400 件近く発行されていた。1990 年代か

ら 20 年間で「読み聞かせ」に関する文献発行数が増えた。

年別 (図 2) に見ると、1937 年から 2001 年までは年間 20 件以下であったが、2002 年から 30 件を超え、2007 年では年間 60 件近く発行された。

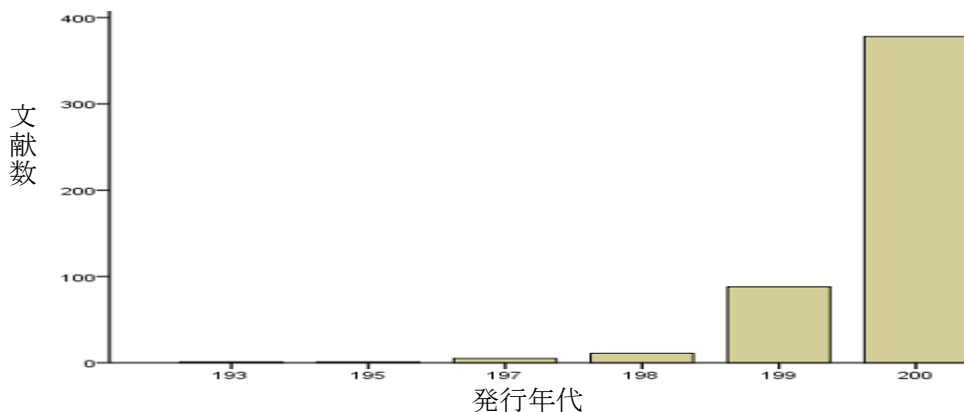


図 1 発行年代別文献数 1930～2000 年代

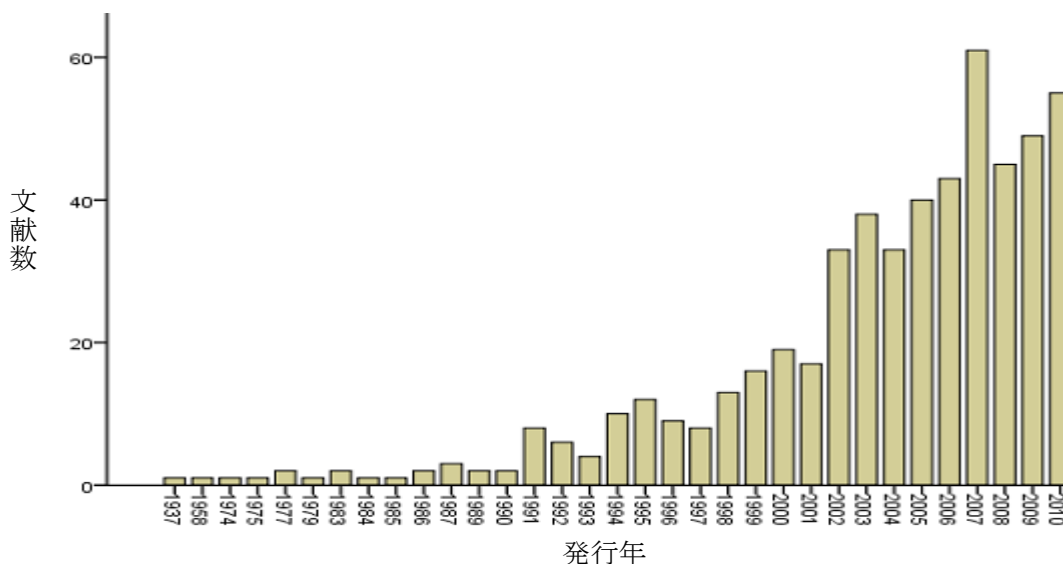


図 2 発行年別文献数 1937 年～2010 年

3 文献のタイトル・サブタイトルのテキストマイニング

1) 基本情報

表 1 は文献のタイトル・サブタイトルの基本情報である。総行数は文献数を表しており、603 件であった。平均行長とはタイトル・サブタイトルの文字数を表しており 30.4 文字であった。総文数は 1386 文で、平均文長は 13.2 文字であった。内容語の延べ単語数は 6174 で、単語種別数 1934 だった。

表 1 基本情報

	項目	値
1	総行数	603
2	平均行長(文字数)	30.4
3	総文数	1386
4	平均文長(文字数)	13.2
5	延べ単語数	6174
6	単語種別数	1934

2) 単語頻度分析

単語頻度分析とは、テキストに出現する単語の出現回数をカウントすることによる分析である。表 2 は文献のタイトル・サブタイトルにおける 10 頻度以上の単語頻度を表している。「読み聞かせ」は 524 個、「絵本」は 279 個、「子ども」は 97 個、「効果」は 49 個だった。また、「学校」「母親」が 18 個、「保育者」は 17 個、「学生」は 16 個だった。

このうち「効果」に注目して単語頻度分析（表 3）を行うと、「幼児」が 15 個だった。「幼児」を原文参照すると、「幼児における絵本への情緒的反応に及ぼす読み聞かせ速度の効果」や「幼児の心情理解に及ぼす絵本の読み聞かせの効果」など、読み聞かせが及ぼす幼児への効果を検討しているものが多かった。

また、「保育者」に注目して単語頻度分析（表 4）を行うと、「絵本」が 10 個だった。原文参照すると、「保育者による絵本の読み聞かせと乳幼児期における認知機能の発達」や「幼稚園における障害者が登場する絵本の読み聞かせに関する保育者の意識」など、保育者が子どもに対して行う読み聞かせの手段として用いられていた。

「学生」に注目して単語頻度分析（表 5）を行うと、「絵本」が 17 個だった。原文参照すると、「幼児保育専攻学生における絵本の読み聞かせに関するとらえ方の変化—読み聞かせ体験をとおして—」や「保育学生における絵本の読み聞かせの理論及び方法の修得に関する研究—絵本を読み聞かせられる立場に立つ経験を取り入れることを通して—」など、学生とは保育者養成課程の学生を指しており、教員が学生に対して保育実践の知識・技術のひとつとして絵本の読み聞かせを行っていた。

表2 単語頻度（タイトル・サブタイトル） 名詞一般 頻度 10 回以上

	単語	品詞	頻度
1	▶ 読み聞かせ	名詞	524
2	絵本	名詞	279
3	子供	名詞	97
4	効果	名詞	49
5	幼児	名詞	43
6	本	名詞	31
7	中心	名詞	26
8	心	名詞	25
9	子供たち	名詞	19
10	学校	名詞	18
11	場面	名詞	18
12	母親	名詞	18
13	保育者	名詞	17
14	学生	名詞	16
15	力	名詞	16
16	家庭	名詞	15
17	ボランティア	名詞	14
18	学校図書館	名詞	13
19	子	名詞	12
20	魅力	名詞	11
21	言葉	名詞	10
22	紙芝居	名詞	10
23	世界	名詞	10

表3 単語頻度（タイトル・サブタイトル） 「効果」を含む単語

	単語	品詞	頻度
1	▶ 読み聞かせ	名詞	57
2	絵本	名詞	51
3	効果	名詞	49
4	幼児	名詞	15
5	さっちゃん	名詞	5
6	て	名詞	5
7	学生	名詞	5
8	障害理解	名詞	5
9	電算画面	名詞	5
10	魔法	名詞	5

表4 単語頻度（タイトル・サブタイトル） 「保育者」を含む単語

	単語	品詞	頻度
1	▶ 読み聞かせ	名詞	17
2	保育者	名詞	17
3	絵本	名詞	10
4	行動	名詞	5
5	思考	名詞	5

表5 単語頻度（タイトル・サブタイトル） 「学生」を含む単語

	単語	品詞	頻度
1	▶ 読み聞かせ	名詞	31
2	絵本	名詞	17
3	学生	名詞	14
4	効果	名詞	6
5	影響	名詞	5
6	及ぼす	動詞	5

4 掲載雑誌名の特徴

603 件の文献が掲載されている雑誌のうち、3 件以上現れているものを取り上げた。最も多かったのが『日本保育学会大会論文集』で 30 件であった。次いで『学校図書館』が 27 件であった。特徴的なのが 9 件から 7 件の雑誌で、「子ども」という語が入っているものが多かった。6 件から 4 件の雑誌では「教育」が多かった。また、『日本看護学会論文集 小児看護』が 4 件とやはり子どもに関係している雑誌名が見られた。保育や教育、小児看護などいずれも子どもが主体である分野であることが共通している。

表 6 掲載雑誌数 3 件以上

雑誌名	発行数(件)	雑誌名	発行数(件)
日本保育学会大会論文集	30	子どもの本棚	4
学校図書館	27	情緒障害教育研究紀要	4
日本教育心理学会総会発表論文集	14	道都大学紀要社会福祉学部	4
研究紀要	13	日本看護学会論文集小児看護	4
全国大学国語教育学会発表要旨集	12	別冊国文学	4
音声表現	10	アエラ	3
社会科教育	10	愛媛大学教育学部紀要	3
子どもと読書	9	今日の学校図書館	3
子どもと読書	9	言語技術教育	3
季刊保育問題研究	8	高知大学教育学部研究報告	3
子どもの図書館	8	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要	3
子どものしあわせ	7	こどもとしょかん	3
こどもの図書館	7	子どもの文化	3
滋賀大学教育学部紀要	7	児童文芸	3
保育の友	7	千葉経済大学短期大学部研究紀要	3
大阪経大論集	6	電子情報通信学会技術研究報告	3
教育学研究	6	奈良教育大学紀要人文・社会科学	3
児童心理	5	日本教育工学会論文集	3
小学校英語教育学会紀要	5	日本児童英語教育学会研究紀要	3
図書館の学校	5	日本保健福祉学会誌	3
母の友	5	人間文化論叢	3
教育実践研究指導センター紀要	4	発達研究	3
教育実践総合センター研究紀要	4	発達心理学研究	3
教材学研究	4	武庫川女子大学発達臨床心理学的研究所紀要	3
国語科教育	4	琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要	3

V 考察

1 保育者養成教育分野における「読み聞かせ」活動の位置づけ

図 1 と図 2 の結果から、1990 年代から読み聞かせに関する文献発行数が増え、2000 年代には急激に増加している。表 1 の結果から、その文献のタイトル・サブタイトルには「絵本」や「子ども」というワードが多いこと、次いで「学校」や「母親」や「保育者」などのワードが多いことから、多くの文献における「読み聞かせ」とは、保育や教育の場で大人が子どもに絵本を読み聞かせるという活動を意味していると考えられる。また、表 4 の結果から、キーワード「保育者」と「学生」においても「絵本」が頻出している。保育者が行う「読み聞かせ」とは子どもへの絵本の読み聞かせのことである。また、ここでの「読み聞かせ」とは、保育技術としての絵本の読み聞かせを指している。以上から、保育分野における「読み聞かせ」とは、保育者が子どもに絵本を読み聞かせることを意味しているといえる。

また、保育者養成課程における「読み聞かせ」の位置づけを探索してみると、キーワード「保育原理」「保育者論」で検索した合計 44 件の文献中で、検索語「読み聞かせ」は 1 個のみで、それは授業者が絵本を用いて、物語解釈の多様性の発見と子ども理解を促す実践を記したものであった。保育原理や保育者論

において、当事者の手記（ナラティブ教材）を読み聞かせ、利用者理解を促すといった教育技法としての意味での「読み聞かせ」の実践研究は行われていないと考えられる。

2 保育者養成教育における「読み聞かせ」の理論的意義

山崎（1990）は、子どもに人間らしく生きる力を育てる具体的な方法が絵本の読み聞かせであると述べている。静かに、心をこめて、ゆっくりと発達段階に合わせて、親や、保育者が、継続的に読み聞かせることであり、このような読み聞かせには、知的好奇心、安心感、感性、主体的思考力といった力がすべて含まれているとしている。そして、絵本は絵とことばから成り立っており、絵を見ながら豊かなことばを耳から聞き、作品の内容を想像し、深く思考できる子は、その世界に感動することができ、絵本を読んでもらって楽しむことのできる子は、絵本の内容を理解することができる。また、楽しむ知的能力が育っているからその絵本が「読める」ということであり、それには共に描かれた絵をじっと見つめ、大人の語りかけることばに耳を傾けて聞くという、人間信頼の心がないとできないと述べている。読み聞かせによって育まれる知的好奇心、感性、主体的思考力、想像力は学生が保育士として備えるべき資質や能力としても重要であるといえよう。よって読み聞かせが保育者養成教育の技法として意義があると考えられる。

3 保育者養成教育における「読み聞かせ」の教育的意義

また、山崎（1990）は、子どもにとって、父母や保育者に絵本を読んでもらうことには深い意味があるとし、それは「読み聞かせを聞く子どもは、絵本の世界を読み手の感動を通して受け取るということです。すぐれた絵本の絵とことばと読み手の思いとが聞き手の心の中で反応し合い、生きることへの希望や期待のエネルギーとして蓄積され、それが人生への知恵と勇気と信頼とになるのではないのでしょうか」と述べている。保育者養成教育における読み聞かせの教育的意義の第一は、上述の通り読み手の教師の感動を学生が受け取るというところにある。そして、第二に、読み聞かせを通して学生が間接体験を多くできることである。山崎（1990）は人間の心を育てる営為に絵本は重要な役割を果たしており「絵本を読んで涙を流す子ども、絵をじーっと読んで、その絵を見て主人公と一緒にいながら一冊の本の中を歩んでいける子ども。自分があっても、もうひとりの自分をそこで間接体験できているのです」と述べている。保育者養成教育において、障害をもつ子どもの保護者等の手記を読み聞かせることで、学生が自分では体験できないが、いずれ保育の実践現場で出会うであろう人々の思いや生活を間接体験し、想像するという営みが重要であると考えられる。

4 本研究の限界と今後の課題

本研究の限界は、「読み聞かせ」というキーワードだけで検索を行ったことである。それと置き換えられるキーワード「朗読」を使って検索することで分析が深まると考えられる。また、今回の研究では、読み聞かせに関する文献の中に、当事者の手記を読み聞かせし、利用者理解を促すという意味での読み聞かせ活動に関する実践や研究が確認できなかった。とはいえ、医療従事者養成教育のなかでも看護学分野ではすでに当事者の闘病記や手記等のナラティブ教材を用いた教育技法の意義と有効性が認められている（小平・伊藤, 2009）。看護学分野と同じく対人援助職である保育士の養成教育においても実践の意義があると考えられる。今後、筆者が保育者論にて実践している当事者手記の読み聞かせが、保育者養成課程の学生における利用者理解の促進に寄与しているか検証することが課題である。

VI 謝辞

本稿の校正を丁寧にしてくださった木下恵美さんに深く感謝を申し上げます。

VII 文献

- 服部兼敏, テキストマイニングで広がる看護の世界, ナカニシヤ出版, (2010)
- 保育士養成課程等検討会, 保育士養成課程等の改正について (中間まとめ), 厚生労働省, 2010-3-24,
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0324-6a.pdf>. (参照 2012-6-1)
- 門林道子, 生きる力の源に, がん闘病記の社会学, 青海社, (2011)
- 小平朋江, 伊藤武彦, ナラティブ教材としての闘病記—多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育的活用—, マクロカウンセリング研究, 8, pp50-67, (2009) .
- 小平朋江, いたうたけひこ, 回復のための資源としての語り—精神障害者のナラティブの教材的活用—, 心理教育・家族教室ネットワーク第 13 回研究集会 (福岡大会) 抄録集, p52, (2010a)
- 小平朋江, いたうたけひこ, 闘病記などのナラティブ教材の種類と意義—メディアの違いに着目して—, 日本精神看護学会第 20 回総会・学術集会プログラム抄録集, pp106-107, (2010b)
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長, 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正について, 厚生労働省, 2010-7-22,
<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T100729N0010.pdf>. (参照 2012-6-1)
- 山口和代, 和田恵美子, 闘病記朗読会, 闘病記読もう会 学生との交流を通して, 闘病記研究会シンポジウム予稿集 文部科学省科学研究費「がん対策に特化した患者図書室における闘病記を用いた患者支援の実証的研究」研究班

主催, pp46-51, (2008/2009)
山崎翠, 続・子育てに絵本を—いのち・ことば・へいわ—, エイデル研究所, (1990)

(2013年4月22日 受理)